



覚醒剤の押収量が前年の約3倍に増加

— 令和元年の函館税関における関税法違反事件の取締り状況 —

函館税関は、令和元年(平成31年1月から令和元年12月まで)の1年間に管内の空港や港湾等において、不正薬物の密輸入その他の関税法違反事件を取り締まった実績をまとめましたのでお知らせします。

1. 不正薬物^{*1}の事犯

不正薬物全体の摘発件数は19件(前年比73%増)、押収量^{*2}は約9.5kg(前年比約3倍)となった。前年に比べ摘発件数及び押収量ともに増加した。

^{*1} 覚醒剤、大麻、あへん、麻薬(ヘロイン、コカイン、MDMA等)、向精神薬及び指定薬物をいう。 ^{*2} 錠剤型薬物を除く。

[覚醒剤事犯]

- 覚醒剤事犯の摘発件数は7件(前年比75%増)、押収量は約9.3kg(前年比約3倍)となり、摘発件数及び押収量ともに増加した。
- 密輸形態は、航空機旅客6件、国際郵便1件であった。

[大麻事犯]

- 大麻事犯の摘発件数は9件(前年比3倍)、押収量は約94g(前年比約95倍)となり、摘発件数及び押収量ともに増加した。
- 密輸形態は、航空機旅客7件、船舶乗組員2件であった。

[麻薬^{*3}事犯]

- 麻薬事犯の摘発件数は1件(前年比66%減)、押収量は約0g(前年比全減)となり、摘発件数及び押収量ともに減少した。
- 密輸形態は、航空機旅客1件であった。

^{*3} ヘロイン、コカイン、MDMA等の薬物。

[指定薬物^{*4}事犯]

- 指定薬物事犯の摘発件数は2件(前年比2倍)、押収量は約34g(前年比約2.8倍)となり、摘発件数及び押収量ともに増加した。
- 密輸形態は、航空機旅客2件であった。

^{*4} 医薬品医療機器等法第2条第15項に基づき厚生労働大臣が指定する薬物(いわゆる「危険ドラッグ」)。

2. 金地金^{*5}の密輸入事犯

金地金密輸入事犯の摘発件数は1件(前年比80%減)、押収量は約14,497g(前年比20%増)となり、摘発件数は減少したものの、押収量は増加した。

^{*5} 金地金には、金塊に加えて一部加工された金製品も含む。

3. その他の事犯

偽造クレジットカードの密輸入を1件告発した。

【問合せ先】

函館税関 税関広報広聴官
電話:0138-40-4218

(資料1) 函館税関管内における不正薬物摘発実績

| 種類 | 年 | 平成27年 | 平成28年 | 平成29年 | 平成30年 | 令和元年 | 前年比 |
|-------|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | 件 | 1 | 3 | - | 4 | 7 |
| 覚醒剤 | g | 6 | 1,003 | - | 3,132 | 9,321 | 3.0倍 |
| 大麻 | 件 | 1 | 5 | 4 | 3 | 9 | 3.0倍 |
| | g | 1 | 21 | 5 | 1 | 94 | 94.7倍 |
| 大麻草 | 件 | 1 | 3 | 2 | 2 | 3 | 150% |
| | g | 1 | 2 | 4 | 1 | 7 | 6.8倍 |
| 大麻樹脂等 | 件 | - | 2 | 2 | 1 | 6 | 6.0倍 |
| | g | - | 19 | 1 | 0 | 87 | 全増 |
| あへん | 件 | - | - | - | - | - | - |
| | g | - | - | - | - | - | - |
| 麻薬 | 件 | - | 1 | 2 | 3 | 1 | 33% |
| | g | - | 1 | 22 | 5 | 0 | 0% |
| | 錠 | - | - | - | 163 | - | 全減 |
| ヘロイン | 件 | - | - | - | - | - | - |
| | g | - | - | - | - | - | - |
| コカイン | 件 | - | - | - | 1 | 1 | 100% |
| | g | - | 0 | - | 2 | 0 | 0% |
| MDMA等 | 件 | - | - | - | 1 | - | 全減 |
| | g | - | - | - | 0 | - | 全減 |
| | 錠 | - | - | - | 162 | - | 全減 |
| ケタミン | 件 | - | 1 | 1 | - | - | - |
| | g | - | 1 | 2 | 0 | - | 全減 |
| その他麻薬 | 件 | - | - | 1 | 1 | - | 全減 |
| | g | - | - | 20 | 3 | - | 全減 |
| | 錠 | - | - | - | 1 | - | 全減 |
| 向精神薬 | 件 | - | - | - | - | - | - |
| | g | - | - | - | 0 | - | 全減 |
| | 錠 | - | - | - | - | - | - |
| 指定薬物 | 件 | 1 | 1 | - | 1 | 2 | 2.0倍 |
| | g | 7 | 5 | - | 12 | 34 | 2.8倍 |
| 合計 | 件 | 3 | 10 | 6 | 11 | 19 | 173% |
| | g | 15 | 1,030 | 27 | 3,151 | 9,449 | 3.0倍 |
| | 錠 | - | - | - | 163 | - | 全減 |

(注) 1. 令和元年は、平成31年1月から令和元年12月を示す。以下同じ。

2. 税関が摘発した密輸入事犯のほか、警察等其他機関が摘発した事件で、税関が当該事件に関与したものを含む。

3. 覚醒剤は、覚醒剤及び覚せい剤原料の合計を示す。

4. 大麻樹脂等は、大麻樹脂のほか、大麻リキッド・大麻菓子等の大麻製品の合計を示す。

5. MDMA等は、MDMA、MDA及びMDEの合計を示す。

6. 端数処理のため数値が合わないことがある。

7. 数量の表記について、小数点以下四捨五入。「0」は0.5g未満の場合を示し、「-」とは全く無い場合を示す。

8. 摘発件数が「-」であるのに、押収量(g)に数字が記載されているのは、他の薬物において件数を計上していることを示す。

9. 指定薬物については、平成27年4月以降の実績を計上。

10. 令和元年の数値は速報値である。

(資料2) 函館税関管内における金地金の摘発実績

| | | 平成27年 | 平成28年 | 平成29年 | 平成30年 | 令和元年 | 前年比 |
|------|---|-------|--------|--------|--------|--------|------|
| 摘発件数 | 件 | 2 | 3 | 17 | 5 | 1 | 20% |
| 押収数量 | g | 8,000 | 12,000 | 39,904 | 12,034 | 14,497 | 120% |

(注) 平成30年、令和元年の数値は速報値である。

【事例1】 令和元年5月 札幌税関支署等摘発

アメリカ合衆国から札幌市内民泊あてに配達された国際郵便小包1個から

覚醒剤 約 1キログラム

を摘発した。(赤枠が本件摘発分)



【事例2】 令和元年8月 青森税関支署青森空港出張所摘発

仁川国際空港(韓国)から青森空港に到着した韓国男性の携帯品検査において、

覚醒剤 約 2キログラム

を摘発した。



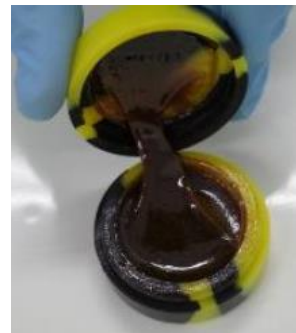
【事例3】 令和元年8月 千歳税関支署摘発

スワンナプーム国際空港(タイ)から新千歳空港に到着したタイ人男性の携帯品検査において、

大麻である樹脂状固形物 約 22 g

大麻である橙色オイル 約 3 g

を摘発した。



【事例4】 令和元年11月 函館税関摘発

台湾桃園国際空港(台湾)から函館空港に到着した台湾人男性の携帯品検査において、

指定薬物である亜硝酸イソブチルを含有する透明液体 約20 g

を摘発した。



【事例5】 平成31年1月 千歳税関支署摘発

ペナン国際空港(マレーシア)から新千歳空港に到着したマレーシア人男性2名の携帯品検査において、

偽造クレジットカード 456枚

を摘発した。

